

平成19年9月12日

「世界トップレベル研究拠点プログラム」の採択構想選定にあたって (委員長談話)

優れた研究は、多くの研究者の切磋琢磨の中で生まれることが多いことはよく知られており、それ故に世界のトップレベルの研究者が集う研究拠点をすることは、我が国の未来にとって大変重要な課題であります。そのような問題意識のもとに計画された「世界トップレベル研究拠点プログラム」を実施に移すため、同プログラム委員会が平成19年8月30、31日の両日開催され、5件の構想が決定されました。

応募のあった33件の構想はいずれも意欲的かつ魅力的なものであったため、審査のプロセスは極めて難しいものでした。しかしながら、書類審査に参加いただいた155人(うち、46人は外国人)の審査委員の方々、および6人の海外委員を含む15人のプログラム委員の方々のご協力を得て、活発かつ中身の濃い議論を行い、結果として非常に有望な構想を採択できたと自負しています。

この「世界トップレベル研究拠点プログラム」は、世界の第一線の研究者が是非そこで研究したいとして多数集うような、高い研究水準と優れた研究環境を誇る「目に見える拠点」を我が国に作っていかうとする意欲的なプログラムです。日本のおかれた地理的環境、言語の問題等を考えると、このような拠点の構築は決して容易ではありません。しかしながら、本プログラム委員会は、このような拠点が日本の科学技術の発展のために是非とも必要であると確信しており、今後も毎年拠点活動の進捗状況の確認を行い、フォローアップを行うことを通じ、「目に見える拠点」を文部科学省とともに最後まで作り上げていく所存です。

今回選定された5つの構想は全て、日本が世界に誇る強い分野で傑出した研究を行っている研究者を結集した非常に強力で有望なものばかりです。「目に見える拠点」の構築、という目標に向け着実にプログラムを進めていただけるものと確信しています。

また、今回惜しくも選定されなかった構想についても、自らの取り組みに更なる改善を図り、それぞれに優れた拠点作りの努力を継続いただきたいと思います。

最後になりましたが、忙しい合間を縫って書類審査に協力いただいた審査委員の方々、遠路遥々このプログラムのために欧米、アジアから駆けつけていただいた外国人委員を含め、2日間缶詰になってヒアリング審査を行っていただいた「プログラム委員会」委員の方々に感謝するとともに敬意を表したいと思います。

このプログラムを通じ日本の科学技術が一層飛躍していくことを切に祈念しています。

井村 裕夫
「世界トップレベル研究拠点プログラム委員会」委員長